

管理番号

56

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	鳥抗原の吸入により生じるアレルギー性肺炎(過敏性肺炎)の原因抗原タンパクに対する血中抗体測定の有用性を調べる研究 (過敏性肺炎における鳥由来抗原タンパク(ハト Immunoglobulin lambda-like polypeptide-1)に対する特異的 IgG 抗体測定の有用性の検討)
研究開発期間(西暦)	2017年12月～2026年3月
研究機関名	東京医科歯科大学
研究責任者職氏名	呼吸器内科 医学部内講師 白井 剛

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

間質性肺炎の原因のひとつに鳥のフンや羽毛の吸入によるアレルギーがあります(間質性肺炎のなかに含まれますが、正確には過敏性肺炎という病名になります)。鳥を飼育していたり、直接触れていなくても、自宅や職場周辺に生息している鳥や羽毛製品(羽毛布団、ダウンジャケットなど)が原因であることもあります。吸い込んでもすぐに症状は出ないため、知らない間に吸入している場合も少なくありません。慢性に生じる過敏性肺炎(慢性過敏性肺炎)は、症状、レントゲンやCTなどの画像所見、血液検査などの検査所見が、いずれもほかの間質性肺炎ときわめて類似していて、現在病院で一般的に行っている検査では明確に区別することができません。

間質性肺炎の多くは進行性で、治りにくく、治療法が限られています。アレルギーの場合、原因物質から遠ざかることで病気の進行が抑えられる期待があり、鳥抗原が原因の過敏性肺炎の早期診断につながる標準的な検査方法の確立が望まれています。

私達は最近の研究で、ハトの血液、フンに含まれる抗原タンパクを分離して人工的に精製することに成功しました。この研究では人工的に精製したハト抗原を利用して、過敏性肺炎の診断に役立つ検査方法の確立をめざします。鳥抗原が原因の過敏性肺炎の患者さんと対照疾患患者さん(鳥以外の抗原が原因の過敏性肺炎、膠原病合併間質性肺炎、特発性間質性肺炎、サルコイドーシスなど他の間質性肺炎、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、喘息)、健康な方を対象に血液中のハト抗原タンパクに対する抗体の有無をしらべます。

この研究により、鳥抗原が原因の過敏性肺炎が早期に診断できる検査方法が確立できることを期待しています。

2 使用する献血血液の種類・情報の項目

献血血液の種類：検査残余血液(血清)

献血血液の情報：なし

3 共同研究機関及びその研究責任者氏名

《献血血液を使用する共同研究機関》

サーモフィッシャーダイアグノスティック株式会社 南 敬一郎

《献血血液を使用しない共同研究機関》

なし

4 研究方法《献血血液の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

東京医科歯科大学附属病院・呼吸器内科を受診されている鳥が原因である過敏性肺炎の患者さん、それ以外の物質が原因の過敏性肺炎や、その他の間質性肺炎の患者さん、健常者の方を対象とし、血液に含まれるハト由来抗原タンパクに対する抗体（抗原特異的 IgG 抗体）の量を、イムノキャップ法という測定技術を利用して測定します。提供いただいた血清は健常者として、患者さんの血中の抗体価との差をみるために使用します。血液は個人が特定できない様に匿名化した状態でサーモフィッシャーダイアグノスティック株式会社に送付し測定を行います。

5 献血血液の使用への同意の撤回について

研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。

6 上記5を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

R050021

本研究に関する問い合わせ先

所属	東京医科歯科大学 呼吸器内科
担当者	白井 剛
電話	03-5803-5954
Mail	tshipulm@tmd.ac.jp